消化器外科・小児外科

●スタッフ（2022年10月1日現在）

診療科長　永川　裕一
医局長　真崎　純一
病棟医長　笠原　健大
外来医長　刑部　弘哲

医師数　常勤　30名
非常勤　21名

●診療科の特徴

当科では成人の消化器疾患と、小児外科を扱っている診療科です。消化器疾患を臓器ごとに上部（食道・胃）、下部（大腸・肛門）、肝胆膵、小児・良性疾患グループに分け、かつ臓器横断的に低侵襲手術を中心とした最先端の医療を提供できるように診療・研究を行っています。

食道癌に関しては、全て低侵襲手術（ロボット支援／胸腔鏡下）にて食道切除術を行っております。進行癌に対しては、化学放射線療法後のSalvage手術やConversion手術も積極的に行っております。また切除不能食道がんに対しても化学放射線治療を行っております。

胃癌に関しては、全て低侵襲手術（ロボット支援／胸腔鏡下）を行っています。進行癌に対しては、新規抗癌剤による治療の導入や、病期をさげてからより安全に手術をおこなうConversion Surgeryも行っています。一部の進行癌に関しては治療前の腹腔内の転移などを確認するための審査腹腔鏡手術を行うこともあります。また、胃粘膜下腫瘍に対しては、消化器内科と合同で腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）も行っています。また、多施設共同研究に参加して新規治療方針の決定に貢献しています。

肝胆膵領域では、膵癌など悪性疾患を含め低侵襲手術であるロボット支援手術を積極的に取り入れており、近年症例数が増加しております。膵癌に対しては特に力を入れており、日本有数の症例数を誇ります。局所進行膵癌に関しては化学療法を行った後手術を行うConversion Surgeryを含めあきらめない治療を行っております。また、癌の制御を目指し手術だけでなく新規抗癌剤などによる術後補助療法を積極的に行うとともに、その副作用を患者血液の遺伝子解析を利用して予測する研究も行っており治療に役立たせております。

結腸癌・直腸癌手術を208例施行しており、約80%前後を、低侵襲手術（ロボット支援・腹腔鏡下）にて施行し良好な成績を得ています。保険収載以前より臨床試験として施行していたロボット支援直腸切除術は、東日本トップクラスの症例数であり、2022年度より保険収載となったロボット支援結腸切除術も多数実施しております。また、手術療法のみならず、術前・術後治療から進行・再発治療までの集学的治療やconversion surgeryも積極的に行っております。各種臨床試験に参加し、新規治療方針決定にも寄与しております。

小児外科では食道裂孔ヘルニア・Hirschsprung病・鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡下手術を導入し良好な成績を得ています。また小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行い良好な成績を収めております低侵襲手術（腹腔鏡下鼠経ヘルニア手術LPEC法）も取り入れており、臍ヘルニアに対しては、形成外科と合同で手術を行い、より審美的に優れた手術を行っております。

良性疾患領域では、本年より新設されたグループにて、炎症性腸疾患（IBD）や胆石症、大腸憩室症、直腸脱などその他多彩な良性疾患を扱っております。IBDは当院の炎症性腸疾患（IBD）・良性腸疾患センターも連携し、科を横断した診断・治療を行っております。

●診療体制と実績

全体の手術総数は990例であり、近年は経時的に症例数が増加しております（図1）。2018年4月より消化器癌に対するロボット支援手術が保険収載されましたが、当科では以前より食道癌・胃癌・膵臓癌・大腸癌に対して臨床試験を経てロボット支援手術を導入し積極的に手術件数を増やしています。

食道癌の切除例は年間22例で、胸腔鏡下食道切除術を含む手術は21例でした（図2a）。

胃癌の切除例は年間60例で、腹腔鏡下手術は51例で、ロボット支援手術7例でした（図2b）。低侵襲術の割合は年々増加傾向にあります。

肝切除・膵切除例はそれぞれ年間34例と163例です。特に膵臓疾患についてはさらに増加傾向にあり、低侵襲手術（腹腔鏡下・ロボット支援下）を積極的に取り入れております（図2c,d）。

結腸癌・直腸癌の切除例は年間204例です。また、かねてから手術症例のうち70～85%の症例に対して低侵襲手術を取り入れており、その割合は年々増加傾向にあり、2022年はロボット手術が良好な成績を得ております。

小児外科領域は年間180例の手術を行っております。2011年からは小児泌尿器科的疾患も積極的に手術を行っております（図2f）。

本年より新たに新設されました、良性疾患領域では、IBDや胆石、鼠経ヘルニアなどの良性疾患、また緊急手術を中心として164件を施行しております。

図1：総手術件数

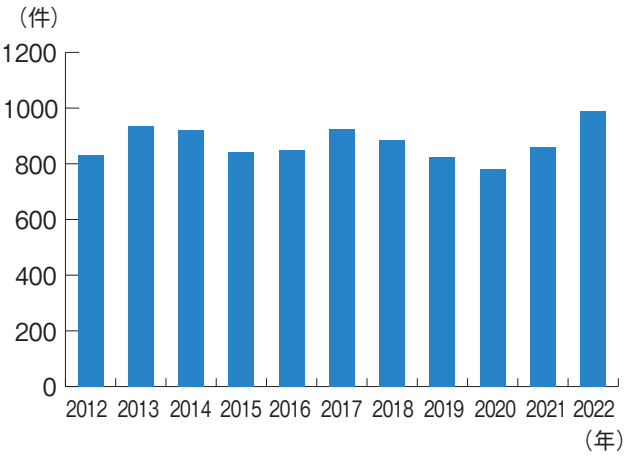
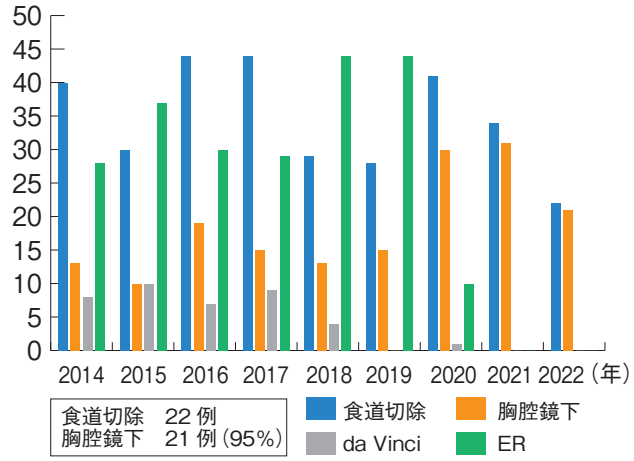
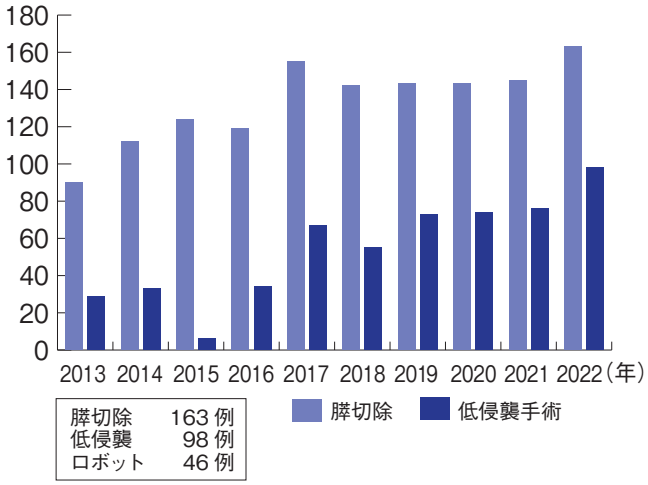


図 2a：食道切除



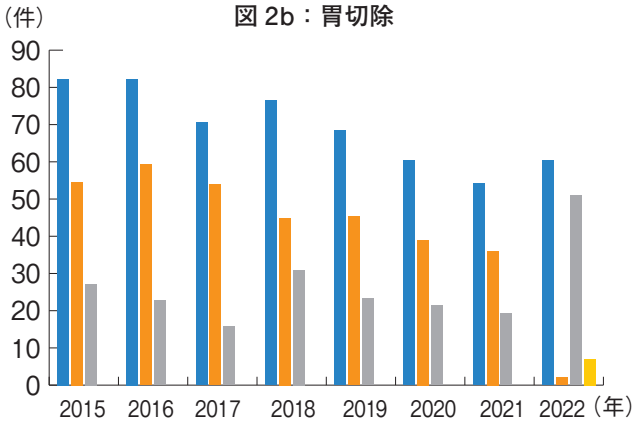
食道切除　22 例
胸腔鏡下　21 例 (95%)

図 2d：膵切除



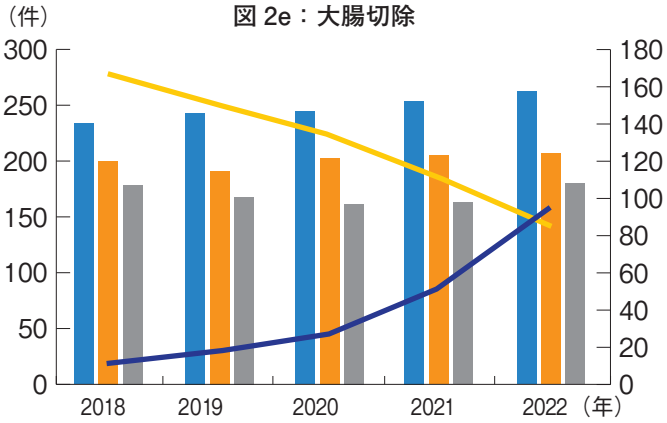
膵切除　163 例
低侵襲　98 例
ロボット　46 例

図 2b：胃切除



胃手術　60 例
開腹　2 例 (3.3%)
腹腔鏡下 51 例 (85%)
ロボット　7 例 (16.7%)

図 2e：大腸切除



全手術数　259 例
大腸切除　204 例
MIS　178 例
腹腔鏡　84 例
ロボット　94 例

図 2c：肝切除

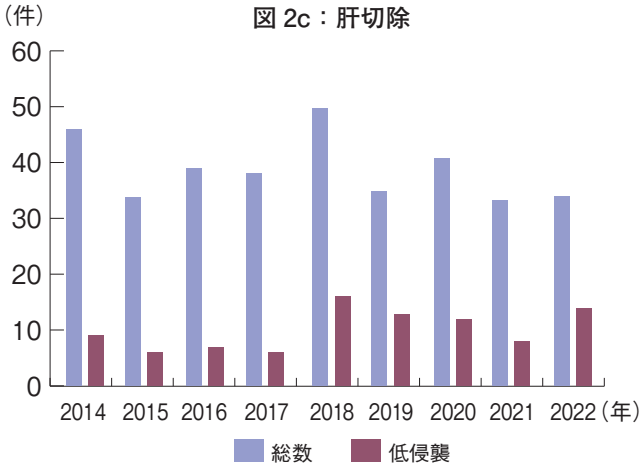
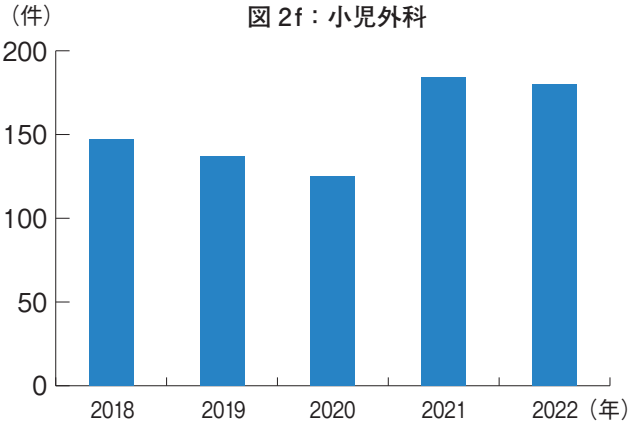


図 2f：小児外科



総数　180 例程度
新生児手術症例　7 例